項目	表示形式	対象年度	具体内容
自治体排出量カルテ① CO ₂ 排出量の現状把握			
○地方公共団体の部門·分野別CO ₂ 排出量(標準的手法)			
1) 部門·分野別CO ₂ 排出量構成比 平成17年度(2005年度)	円グラフ	2005年度	・標準的手法に基づくCO ₂ 排出量推計データの部門・分野別排出量を集計
2) 部門·分野別CO ₂ 排出量構成比 平成25年度(2013年度)	円グラフ	2013年度	・標準的手法に基づくCO ₂ 排出量推計データの部門・分野別排出量を集計
3) 部門・分野別CO₂排出量構成比 令和4年度(2022年度)	円グラフ	2022年度	・標準的手法に基づくCO ₂ 排出量推計データの部門・分野別排出量を集計
4) 部門・分野別CO ₂ 排出量の推移	積上げ縦棒グラフ	2009~2022年度	・2009年度以降の部門・分野別CO ₂ 排出量の推移
5) 部門・分野別CO ₂ 排出量構成比の比較(都道府県平均及び全国平均)	100%積上げ横棒グラフ	2022年度	・地方公共団体と該当都道府県平均、全国平均の部門・分野別のCO ₂ 排出量構成比の比較

自治体排出量カルテ② 活動量の現状把握			
○地方公共団体の活動量			
1) 部門・分野別指標の推移 (廃棄物分野のみCO ₂ 排出量の推移)	折れ線グラフ・縦棒グラフ	2009~2022年度	・標準的手法の部門・分野別の活動量の推移

自治体排出量カルテ③ 特定事業所の温室効果ガス排出量の現状把握			
1 地方公共団体の特定事業所排出量			
1)特定事業所の部門別排出量(令和3年度)	円グラフ	2021年度	特定事業所の部門別排出量構成比
2) 特定事業所の部門別排出量の推移	積上げ縦棒グラフ	2011~2021年度	・2011年度以降の特定事業所の部門別排出量の推移
3) 特定事業所のガス種別排出量(令和3年度)	円グラフ	2021年度	・特定事業所のガス種別排出量構成比
4) 特定事業所のガス種別排出量の推移	積上げ縦棒グラフ	2011~2021年度	・2011年度以降の特定事業所のガス種別排出量の推移
5) 業種別の特定事業所の事業所数及び排出量(令和3年度)	横棒グラフ	2021年度	・特定事業所の業種別事業所数及び排出量
2 地方公共団体の区域のCO ₂ 排出量との比較			
6) 区域のCO ₂ 排出量の推移及び特定事業所排出量のカバー率の推移	積上げ縦棒・折れ線グラフ	2011~2021年度	・区域の産業部門・業務その他部門の排出量の推移と特定事業所排出量が占める割合(カバー率)の推移
3 全国の1事業所当たりの排出傾向との比較		•	
7) 1事業所当たりの排出傾向(全国平均値との比較)(令和3年度)	横棒グラフ	2021年度	・特定事業所1事業所当たりの排出量の全国平均との比較

自治体排出量カルテ④ 地方公共団体の再生可能エネルギー導入状況及び導	拿入ポテンシャルの現状	把握	
1 地方公共団体のFIT·FIP制度による再生可能エネルギー(電気)			
1) 区域の再生可能エネルギーの導入設備容量(令和5年度)	円グラフ	2023年度	・FIT・FIP公表情報の再生可能エネルギーの設備別の導入状況(導入設備容量)
2) 区域の再生可能エネルギーによる発電電力量(令和5年度)	円グラフ	2023年度	・FIT・FIP公表情報の再生可能エネルギーの設備別の導入状況(発電電力量)
3) 区域の再生可能エネルギーの導入設備容量の推移(累積)	積上げ縦棒・折れ線グラフ	2015~2023年度	・FIT・FIP公表情報の再生可能エネルギーの設備別導入設備容量の推移と区域の電気使用量に対するFIT・FIP太陽 光導入比の推移
4) 区域の太陽光発電(10kW未満)設備の導入件数の推移(累積)	縦棒グラフ	2015~2023年度	・FIT・FIP公表情報の太陽光(10kW未満)の導入件数の推移
2 地方公共団体の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル			
5) 導入ポテンシャル (電気のみ・設備容量)	円グラフ	2024年11月末時点	・REPOSの再エネ導入ポテンシャル(電気のみ・設備容量)
6) 導入ボテンシャル (発電電力量・利用可能熱量)	円グラフ	2024年11月末時点	・REPOSの再エネ導入ポテンシャル(発電電力量・利用可能熱量)
3 区域のエネルギー消費量及び再生可能エネルギー導入ポテンシャル・導入量の比較(電気)			
7) 区域内のエネルギー消費量に対する再エネ導入ポテンシャル (電気)	縦棒グラフ	2023年度	・区域の電気使用量に対する再工や導入量、再工や導入ポテンシャルの比較 ※区域の電気使用量は2022年度で代用
8) 区域内の再エネ導入ポテンシャルと再エネ導入量(電気)	縦棒グラフ	2023年度	・再工ネ種別の再工ネ導入ポテンシャルに対する再工ネ導入量の比較

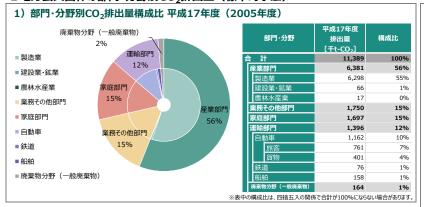
※人口が同程度の他の地方公共団体との排出量の比較シート、他の地方公共団体との再エネ導入量や再エネポテンシャルの比較シート、特定事業所集計表シートも付録しています。

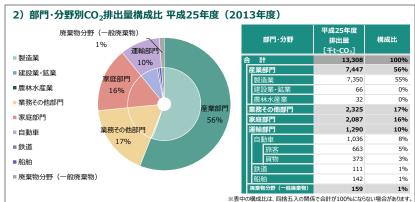
《大口》问程及VIIIO地方五共团体CVIIIT出重约比较之一下。他VIIII 五共	山体との舟工や待入里	ピガエヤハナフンドルのユ	に収えード、行足事業が未計及と「OTDIMO CVはす。
自治体排出量カルテ 他の地方公共団体との比較(部門・分野別排出量)			
1 部門・分野別排出量の比較(標準的手法)(令和3年度(2021年度))			
1)部門·分野別CO ₂ 排出量の比較	積上げ横棒グラフ	2021年度	・標準的手法に基づく区域の部門・分野別CO2排出量を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
2)部門・分野別 CO_2 排出量構成比の比較	100%積上げ横棒グラフ	2021年度	・標準的手法に基づく区域の部門・分野別CO2排出量構成比を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
2 区域の排出量に占める特定事業所排出量比率の比較(令和3年度(2021年度))			
3)産業部門	横棒グラフ	2021年度	・標準的手法に基づく区域の産業部門排出量に対し特定事業所排出量が占める割合(カバー率)を人口が同程度の 28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
4) 業務その他部門	横棒グラフ	2021年度	・標準的手法に基づく区域の業務その他部門排出量に対し特定事業所排出量が占める割合(カバー率)を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
3 特定事業所排出量の比較(令和3年度(2021年度))			
5) 特定事業所排出量の比較	積上げ横棒グラフ	2021年度	・特定事業所排出量を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
6) 特定事業所数の比較	積上げ横棒グラフ	2021年度	・特定事業所数を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
7) 特定事業所排出量の部門別構成比の比較	100%積上げ横棒グラフ	2021年度	・特定事業所排出量の部門別構成比を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較

自治体排出量カルテ 他の地方公共団体との比較(再エネ導入量・再エネボ	テンシャル)		
1 再エネ導入量の比較(令和5年度(2023年度))			
1) 他の地方公共団体との再エネ別導入設備容量の比較	積上げ横棒グラフ	2023年度	・再エネ別導入設備容量を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
2) 他の地方公共団体との再エネ別発電電力量の比較	積上げ横棒グラフ	2023年度	・再エネ別発電電力量を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較
3) 他の地方公共団体との対電気使用量FIT・FIP導入比の比較	積上げ横棒グラフ	2023年度	・対電気使用量FIT・FIP導入比を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較 ※区域の電気使用量は2022年度で代用
4)対世帯数FIT・FIP太陽光発電(10kW未満)導入比の比較	横棒グラフ	2023年度	・対世帯数FIT・FIP太陽光発電(10kW未満)導入比を人口が同程度の28市区町村(都道府県の場合は47都道府県)と比較 ※世帯数は2022年度で代用
2 再エネ導入ポテンシャルの比較			
5) 同一都道府県内における他の地方公共団体の再エネポテンシャル(発電電力量)の比較	積上げ横棒グラフ	2024年11月末時点	・他の地方公共団体の再エネボテンシャル(発電電力量)を同一都道府県内で比較
6) 同一都道府県内における他の地方公共団体の電気使用量の比較	横棒グラフ	2024年11月末時点	・他の地方公共団体の電気使用量を同一都道府県内で比較 (※2022年度で代用)
7) 同一都道府県内の他の地方公共団体の再エネ不足量・余剰量の比較	横棒グラフ	2024年11月末時点	・他の地方公共団体の再エネ不足量・余剰量を同一都道府県内で比較 ※区域の電気使用量は2022年度で代用

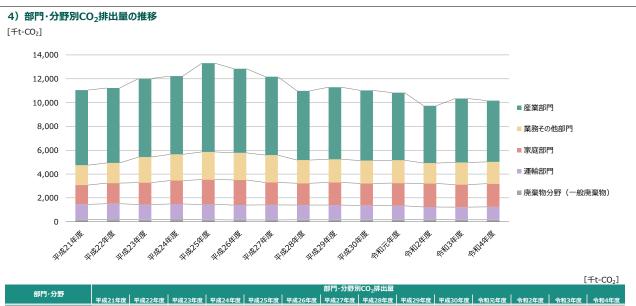
特定事業所集計表シート			
特定事業所集計表			
特定事業所集計表	表	2011~2021年度	・特定事業所の事業所数と排出量の集計表(日本標準産業分類別)

○地方公共団体の部門·分野別CO₃排出量(標準的手法)

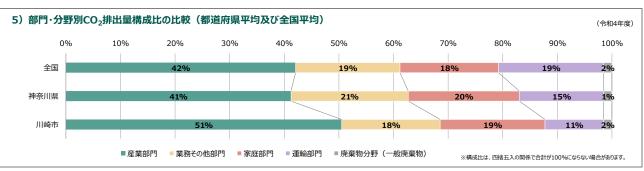




3) 部門·分野別CO₂排出量構成比 令和4年度(2022年度) 令和4年度 廃棄物分野 (一般廃棄物) 部門·分野 構成比 排出量 [+t-co₂] ■製造業 運輸部門 10,161 100% 11% 建設業・鉱業 産業部門 5,132 51% 5.046 50% ■農林水産業 63 建設業·鉱業 1% 家庭部門 農林水産業 23 0% ■業務その他部門 19% 産業部F 1,832 18% ■家庭部門 家庭部門 1,951 19% 1 089 11% ■自動車 880 9% ■鉄道 業務その他部門 525 5% 18% 355 3% ■船舶 90 1% ■廃棄物分野(一般廃棄物) 118 1% 157 2% ※表中の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。



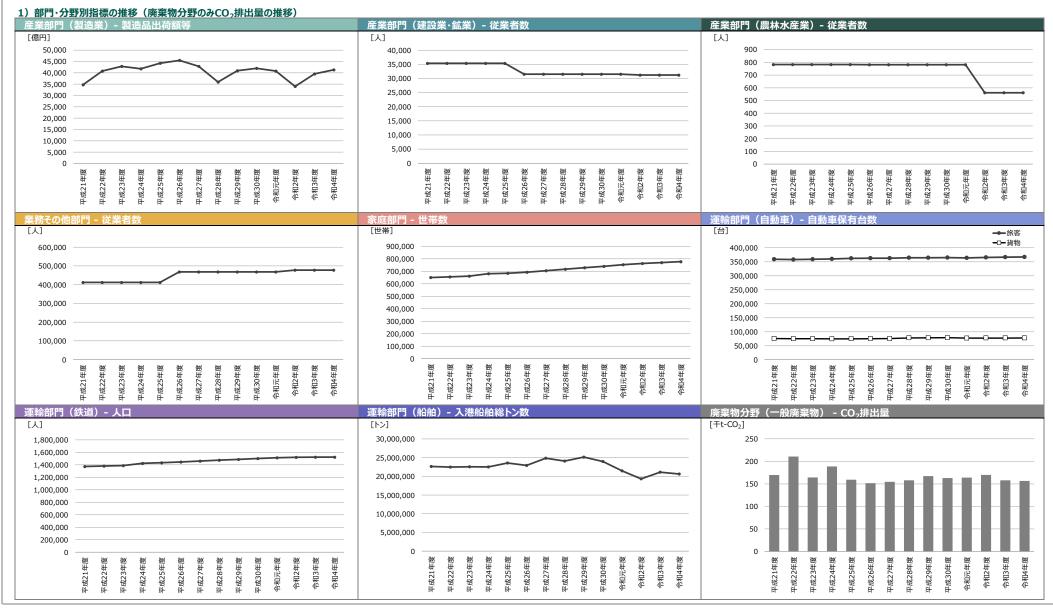
部門·分野		部門·分野別CO₂排出量												
型1.1.11至3	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
計	11,045	11,230	12,019	12,225	13,308	12,847	12,168	10,984	11,290	11,021	10,836	9,740	10,335	10,161
産業部門	6,297	6,298	6,596	6,567	7,447	7,063	6,581	5,803	6,052	5,888	5,678	4,819	5,367	5,132
製造業	6,209	6,210	6,484	6,459	7,350	6,948	6,463	5,681	5,917	5,781	5,576	4,729	5,263	5,046
建設業·鉱業	46	49	77	73	66	65	62	61	63	59	54	57	71	63
農林水産業	41	38	35	35	32	50	55	61	72	47	48	33	32	23
業務その他部門	1,672	1,694	2,140	2,201	2,325	2,280	2,293	1,943	1,939	1,910	1,910	1,717	1,850	1,832
家庭部門	1,619	1,728	1,831	1,968	2,087	2,099	1,885	1,837	1,900	1,852	1,918	1,974	1,892	1,951
重輸部門	1,288	1,300	1,288	1,300	1,290	1,253	1,255	1,243	1,233	1,208	1,167	1,060	1,069	1,089
自動車	1,085	1,087	1,061	1,059	1,036	1,008	1,004	998	987	975	951	862	857	880
旅客	710	705	691	688	663	630	625	619	610	598	581	512	498	525
貨物	375	382	370	371	373	378	379	379	377	377	371	350	359	355
鉄道	80	84	97	109	111	107	106	104	102	95	93	90	89	90
船舶	123	129	129	133	142	138	145	141	144	138	122	109	123	118
廃棄物分野(一般廃棄物)	169	211	164	189	159	152	155	158	167	163	164	170	158	157



区域のCO_排出量は、環境省「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定・実施マニュアル」の標準的手法に基づき、統計資料の按分により地方公共団体別部門・分野別CO_排出量を推計した値です。なお、一般廃棄物のCO_排出量は、一般廃棄物処理実態調査結果の焼却施設ごとの年間処理量等から推計しています。各地方公共団体の過年度のデータは、地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト「部門別CO_排出量の現況推計(部門別データ)」(https://www.env.go.jp/policy/local_keikakw/tools/suikei2.html)を御参照(ださい。本かルデに掲載している推計年度は、地方公共団体実行計画(区域施策編)で地域の温室効果ガス排出量の目標を策定する際に基準年度や現状年度として選択できます。令和4年度(2022年度)は最新の現況推計年度です。各部門・分野別CO_排出量構成比を分析することで施策の検討に役立てることができます。

棄物処理実態調査結果の焼却施設ごとの年間処理量等から推計しているため、推計したCO。排出量の推移を掲載しています。

○地方公共団体の活動量



部門・分野別活動量の推移で示す各指標は、部門・分野別CO」排出量の推計に用いた按分指標です。それぞれの指標の経年変化を分析することで、CO2排出量の要因となる活動量がでのように常減しているかを把握することができます。
各指標の引用元は次のとおりです。製造品出荷額等(製造業):令和元年度までは上葉統計調査・令和2年度以経済とシナス(活動調査)・令和2年度以降は経済センサス(活動調査)・令和2年度以降は経済センサス(活動調査)・令和2年度以降は経済センサス(活動調査)・令和2年度以降は経済センサス(活動調査)・令和2年度以降は経済センサス(活動調査), 世帯数(家庭部門):住民基本台帳に基づ人口、人口動態及び世帯教調査 自動車保有台数(運輸部門):一般財団法人自動車検査登録情報協会「市区可利別を自動車保有車両数」及び一般社団法人全国軽自動車協会連合会「市区可利別軽自動車両数」, 人口(鉄道):住民基本台帳に基づ人口、人口動態及び世帯教調査 , 入港船舶総トン数(船舶):港湾統計年報
なお、従業者数は経済センサス(基礎調査)を使用し、「平成20年度」、「平成21年度へ平成25年度」、「平成26年度へ令和元年度」をれぞれ同じ統計かり集計・「の匿分合等により数値が同値でない場合もあります)していまいたが、令和3年経済センサス(場を調査)を使用し、「平成20年度、「平成21年度へ平成25年度」、「平成26年度へ令和元年度」をれぞれ同じ統計かり集計・の企業を対象が同じなく、企業を対象に対象が同じななどなく、一般廃

1 地方公共団体の特定事業所排出量



本カルテの「特定事業所」は、多量に温室効果ガスを排出しており、「地球温暖化対策の推進に関する法律」において自らの温室効果ガスの排出量を算定し、国 に報告することが義務付けられている事業所を指します。本カルテの特定事業所の部門と日本標準産業分類との対応は以下のとおりです。

2,515

0

4) 特定事業所のガス種別排出量の推移

1,012

0

2,567

0

2,420

Ω

2,276

0

2,112

0

2,360

2,397

0

製造業:E製造業(エネルギー転換部門の細分類除く)

2,461

0

- ●建設業·鉱業:C鉱業,採石業,砂利採取業、D建設業
- ●農林水産業:A農業,林業、B漁業

エネルギー転換部門

分類不能

●業務その他部門: F電気・ガス・熱供給・水道業~S公務(エネルギー転換部門の細分類除く)

2,297

0

2,273

0

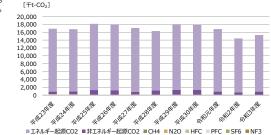
●エネルギー転換部門: 日本標準産業分類の細分類 (E製造業の1711: 石油精製業、1731: コークス製造業、F電気・ガス・熱供給・水道業の3311: 発電所、3312:変電所、3411:ガス製造工場、3511:熱供給業)

3) 特定事業所のガス種別排出量



■ CH4

#HFC



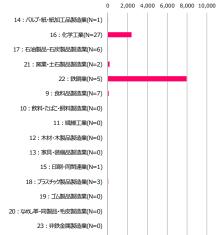
	■ NF3											[+t-CO ₂]
1	温室効果ガス種	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
i	合計	16,885	16,764	18,135	17,922	17,104	16,293	17,937	17,884	16,807	14,427	15,308
	エネルギー起源CO ₂	16,014	15,848	16,846	16,681	16,259	15,070	16,587	16,519	15,919	13,685	14,434
	非エネルギー起源CO ₂	598	679	1,154	1,105	671	1,073	1,201	1,227	736	630	752
	廃棄物原燃料	79	99	170	144	108	177	182	202	126	120	108
	廃棄物原燃料以外	519	580	984	961	563	896	1,019	1,025	611	509	644
	CH ₄	12	15	16	12	13	17	13	18	13	12	13
	N ₂ O	37	70	41	29	29	48	28	64	52	41	44
	HFC	69	62	26	33	49	56	51	19	31	18	21
	PFC	100	54	23	21	32	0	26	25	27	35	33
	SF ₆	55	36	28	41	51	28	31	12	30	7	11
	NF ₃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

エネルギー起源CO。以外のガス種の排出源となっている活動を以下に例示します。あくまで、例示のため、詳細は「算定・報告・公表制度における算定方法・排出 係数一覧」を御確認ください。 (https://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc)

- まTネルギー起源CO。
- ・廃棄物原燃料:廃棄物の焼却のうち廃棄物が燃料に変えて焼却の用に供される場合(A)及び製品の製造の用途への使用、廃棄物燃料等の使用
- ・廃棄物原燃料以外:廃棄物の焼却のうち上記(A)を除く場合、原油又は天然ガスの生産、セメントの製造、生石灰の製造等 ●CH₄:燃料の燃焼の用に供する施設及び機械器具における燃料の使用、都市ガスの製造、稲作、廃棄物の埋立処分、工場廃水の処理等
- ●NoO:燃料の燃焼の用に供する施設及び機械器具における燃料の使用、麻酔剤の使用、家畜の排せつ物の管理、耕地における肥料の使用、等
- ●HFC:業務用冷凍空気調和機器の使用開始におけるHFCの封入、業務用冷凍空気調和機器の整備におけるHFCの回収及び封入等
- ●PFC:アルミニウムの製造、パーフルオロカーボン (PFC) の製造、半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるPFCの使用 等
- ●SF。: マグネシウム合金の鋳造、六ふっ化硫黄(SF。)の製造、変圧器等電気機械器具の製造及び使用の開始におけるSF。の封入等 ●NF₃:三ふっ化窒素(NF₃)の製造、半導体素子等の加工工程でのドライエッチング等におけるNF₃の使用

5) 業種別の特定事業所の事業所数及び排出量 (令和3年度)

※排出量は全ての温室効果ガス種を含む合計値です。Nは特定事業所数を示 します。 [+t-CO₂]



24: 金属製品製造業(N=2) 25: はん用機械器具製造業(N=1) 26: 生産用機械器具製造業(N=1)

27: 業務用機械器具製造業(N=2) 28:電子部品等製造業(N=2) 29: 電気機械器具製造業(N=5) 30:情報通信機械器具製造業(N=4)

> 31:輸送用機械器具製造業(N=2) 32:その他の製造業(N=1)

F: 電気・ガス・熱供給・水道業(N=5)

G:情報通信業(N=9)

H: 運輸業, 郵便業(N=13) I: 卸売業, 小売業(N=9)

J: 金融業, 保険業(N=2)

K:不動産業,物品賃貸業(N=18) 1:学術研究.専門·技術分光業(N=1)

M:宿泊業,飲食サービス業(N=0)

N: 生活関連サード*7業.娯楽業(N=0) O: 教育, 学習支援業(N=4)

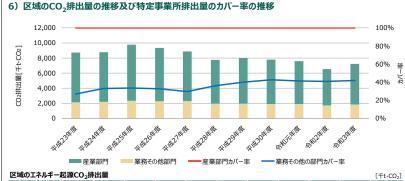
> P: 医療, 福祉(N=11) Q: 複合サービス事業(N=0)

R: サービス業(他に分類されない)(N=9)

S:公務(N=2) 石油精製業・コークス製造業(N=2) 発雷所·変雷所(N=4)

> ガス製造丁場(N=1) 勢/#給業(N=1)

2 地方公共団体の区域のCO₂排出量との比較



ᅜ	33のエイルヤーを	らぶCU2打F	山里									[+t-CO ₂]
部門	3	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
産業	・業務部門の合計	8,736	8,768	9,773	9,344	8,873	7,747	7,991	7,798	7,587	6,536	7,217
	産業部門	6,596	6,567	7,447	7,063	6,581	5,803	6,052	5,888	5,678	4,819	5,367
	製造業	6,484	6,459	7,350	6,948	6,463	5,681	5,917	5,781	5,576	4,729	5,263
	建設業·鉱業	77	73	66	65	62	61	63	59	54	57	71
	農林水産業	35	35	32	50	55	61	72	47	48	33	32
	業務その他部門	2,140	2,201	2,325	2,280	2,293	1,943	1,939	1,910	1,910	1,717	1,850
l √ t	ポのエフルギーキ	で こうぎょう	中島におけ	ス特宗主義	学能の海宮	効甲ガフは	と出場のも	11"二弦				

	스씨	いいエイルヤード	シぶくし 2分	山里にのい	の付た子	未川い畑王	この未り入り	F山里のル	/\— _				
	部門		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ľ	産業	・業務部門の合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		産業部門	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		製造業	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		建設業·鉱業	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
		農林水産業	0%	0%	12%	0%	0%	6%	5%	7%	8%	12%	11%

30%

36%

40%

43% 41% 41% 42%

区域のCO₂排出量(産業・業務部門)は、「①CO₂排出量の現状把握」と同様の数値を用いています。 特定事業所のカバー率※: (カバー率) = (特定事業所の温室効果ガス排出量) / (区域の産業・業務部門のエネルギー起源CO,排出量) ※特定事業所のカバー率は、推計精度の問題により、地方公共団体の区域全体の排出量を超える可能性があります。特定事業所排出量の比率が 100%を超える場合は、カバー率を100%と表記しています。

27% 33% 34% 33%

3 全国の1事業所当たりの排出傾向との比較 ※排出量は全ての温室効果ガス種を含む合計値です。Nは特定事業所数を示します。



地熱発電

■ボエン道1号

1 地方公共団体のFIT・FIP制度による再生可能エネルギー(電気)※1



2) 区域の再生可能エネルギーによる発電電力量 (令和5年度)



- ★陽米発雷(10kW未満) ■ 大陽光発雷(10kW以上)
- 風力発電 ■水力発電 ■地熱発電 ■バイオマス発電

		LKV 区域の再生可能エネルギーの導入設備容量												
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度					
太陽光発電(10kW未満)	16,529	19,131	21,428	23,849	26,773	30,004	33,436	37,574	41,951					
太陽光発電(10kW以上)	17,213	19,579	20,661	22,177	23,295	24,506	27,616	27,675	27,701					
風力発電	1,990	1,990	1,990	1,990	1,990	1,990	1,990	1,990	1,990					
水力発電	90	211	211	211	211	211	211	211	211					
地熱発電	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
バイオマス発電 **2	55,489	55,489	55,489	55,489	55,489	55,489	55,489	55,489	55,489					
再生可能エネルギー合計	91,311	96,400	99,779	103,715	107,758	112,200	118,742	122,939	127,342					

※1:再生可能エネルギー導入設備容量は、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法(再エネ特措法)」(平成23 年法律第108号)に基づくFIT・FIP制度で認定された設備のうち買取を開始した設備の導入容量を記載しています。そのため、自家消費のみで売電し ていない設備、FIT・FIP制度への移行認定を受けていない設備等は、本カルテの値に含まれません。

※2: バイオマス発電の導入設備容量は、FIT・FIP制度公表情報のバイオマス発電設備 (バイオマス比率考慮あり) の値を用いています。

								L	MWh/年]
			区域の評	写生可能工	ネルギーに	よる発電電	力量 ^{※3}		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
太陽光発電(10kW未満)	19,837	22,959	25,716	28,621	32,131	36,008	40,127	45,094	50,346
太陽光発電(10kW以上)	22,769	25,899	27,330	29,334	30,814	32,416	36,529	36,608	36,642
風力発電	4,323	4,323	4,323	4,323	4,323	4,323	4,323	4,323	4,323
水力発電	473	1,109	1,109	1,109	1,109	1,109	1,109	1,109	1,109
地熱発電	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バイオマス発電 **2	388,867	388,867	388,867	388,867	388,867	388,867	388,867	388,867	388,867
再生可能エネルギー合計	436,269	443,157	447,345	452,255	457,244	462,723	470,955	476,000	481,287
区域の電気使用量 ※4	9,395,527	8,754,381	9,279,220	8,852,041	9,056,964	8,705,772	8,600,886	8,678,402	8,678,402
対電気使用量FIT·FIP導入比 ^{※5}	4.6%	5.1%	4.8%	5.1%	5.0%	5.3%	5.5%	5.5%	5.5%

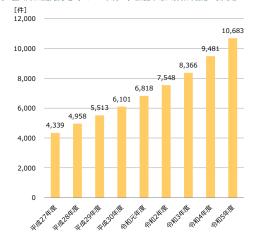
※3:区域の再生可能エネルギーによる発電電力量は、区域の再生可能エネルギーの導入設備容量と調達価格等算定委員会「調達価格等に関する 意見」の設備利用率から推計しました。設備利用率は実際には地域差等があることから、推計値は実際の発電電力量とは一致しません。目安として御活 用ください。なお、推計に用いた前提条件は、「別紙」のシートを御覧ください。

※4:区域の電気使用量は、「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定・実施マニュアル」の標準的手法を参考に、総合エネルギー統計及び都 道府県別エネルギー消費統計の部門別の電気使用量を各部門の活動量で按分して推計しました。ただし、統計資料の公表年度の違いから最新年度の 区域の電気使用量は、その1年度前の値を用いています。

※5:区域のFIT・FIP制度による再生可能エネルギーの発電電力量(の合計値)を、区域の電気使用量で除した値です。

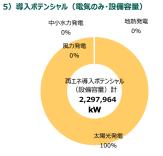


4) 区域の太陽光発電 (10kW未満^{*6}) 設備の導入件数の推移 (累積)



※6:区域の太陽光発電(10kW未満)設備の導入件数は比較的小規模な太陽光発電(住宅等 に設置されるもの)を示すと考えられることから、住宅への太陽光発電の導入実績とみなすことができます。

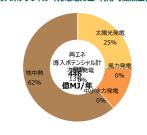
2 地方公共団体の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル※7



■太陽光発電 ■風力発電 ■中小水力発電 ■地熱発電

6) 導入ポテンシャル (発電電力量・利用可能熱量)

FAMILIA (ATT)



■太陽光発電 ■風力発電 ■中小水力発電 ■ 地熱発電 ■太陽熱 ■地中熱 REPOS上に掲載されている再生可能エネルギーの導入ボテンシャルとは、 設置可能面積、平均風速、河川流量等から理論的に算出することがで きるエネルギー資源量(賦存量)のうち、法令、土地用途などによる制 約(国立公園、土地の傾斜、居住地からの距離等)があるものを除い あることから、実際に導入可能な設備容量や発電電力量とは一致しま せん。目安として御活用ください。

設備容量 [kW]	発電電力量 [MWh/年]	導入ポテンシャル [億MJ/年]				
2,293,311	3,116,689	112				
2,161,000	2,937,966	106				
132,311	178,723	6				
4,300	10,305	0				
185	1,372	0				
172	1,262	0				
13	110	0				
168	1,032	0				
0	0	0				
0	0	0				
168	1,032	0				
-	-	59				
-	-	274				
2,297,964	3,129,398	446				
	[kW] 2,293,311 2,161,000 132,311 4,300 185 172 13 168 0 0 168 -	[kW] [MWh/#] 2,293,311 3,116,689 2,161,000 2,937,966 132,311 178,723 4,300 10,305 185 1,372 172 1,262 13 110 168 1,032 0 0 0 0 168 1,032 - - - - - - - - - -				

※7:最新の数値や算定方法、再エネや再エネ導入ボテンシャルの定義は、REPOSのHPを御参照ください。 https://www.renewable-energy-potential.env.go.jp/RenewableEnergy/

参考) 再エネ導入ポテンシャルと再エネ導入量の集計対象の整理^{※8}

	再エネ導入ポテンシャル	再エネ導入量
データ出所	REPOS(ポテンシャル情報)	再エネ特措法 情報公表用ウェブサイト (全国・都道府県はA表、市町村はB表)
太陽光発電	太陽光発電(建物系·土地系)	太陽光発電(10kW未満・10kW以上)
風力発電	風力発電(陸上)	風力発電(20kW未満・20kW以上のうち洋上風力を除く)
水力発電	中小水力発電(河川·農業用水路)	水力発電
地熱発電	蒸気フラッシュ発電・バイナリー発電・低 温バイナリー発電	地熱発電

たエネルギー資源量です。あくまで一定の仮定を置いた上での推計値で ※8:再エネ導入ポテンシャルと再エネ導入量のデータは、集計対象範囲や数値の算出方法が異なるため、 あくまで目安として御活用ください。

3 区域のエネルギー消費量及び再生可能エネルギー導入ポテンシャル・導入量の比較(電気)

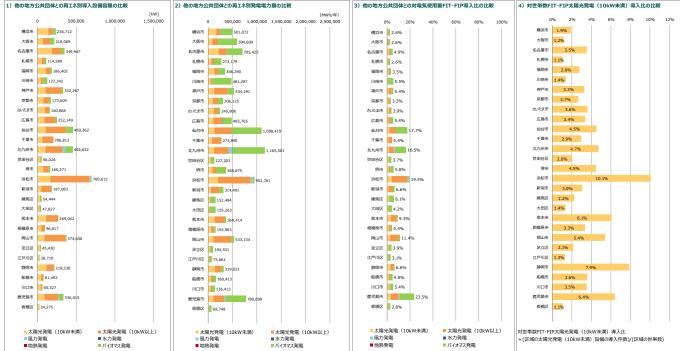


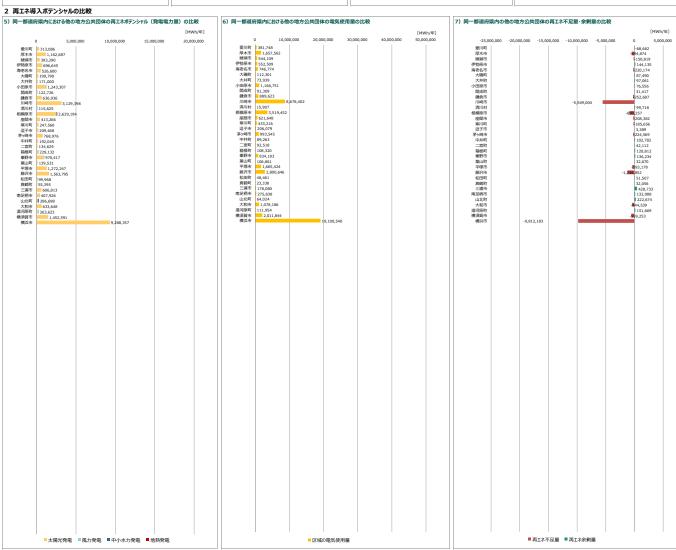
■エイルイ=月貝里 ■円エイ等人里 ■円エイ等人	パテンシャル		= H±1-47010 2.	> 17 = 13±1.	サ八里
区域のエネルギー消費量と再エネ導入ポテンシャル(再エネ導入ポテンシャ	再エネ導入量	再エネポテンシャルに	
対電気使用量FIT·FIP導入比(再工不自給率)	5.5%		ル [MWh/年]	[MWh/年]	占める導入割合
対電気使用量再エネ導入ポテンシャル比 ※9	36.1%	太陽光発電	3,116,689	86,987	2.8%
再工ネ 不足量[MWh/年] **10	5,549,004	風力発電	10,305	4,323	42.0%
※9: (再エネ導入ボテンシャル) / (電気使用量) により算出します。 ※10:電気使用量> 再エネ導入ボテンシャルの場合は「再エネ不足量		水力発電	1,372	1,109	80.8%
使用量く再工ネ導入ボテンシャルの場合は「再工ネ余剰量[MWh/年]」		地熱発電	1,032	0	0.0%

■製造業 ■建設業・鉱業 ■ 農林水産業 ■業務その他部門 ■エネルギー転換部門 ■ 分類不能

■製造業 ■建設業・鉱業 ■農林水産業 ■業務その他部門 ■エネルギー転換部門 ■分類不能

1 再エネ導入量の比較(令和5年度(2023年度))





特定事業所集計表

川崎市

日本	川崎市 本標準産業分類(平成25年10月改定)(平成	26年4月1日施行)		特定事業所数[箇所]												特定事業所排出量[干t-CO ₂]										
大分	中分類	細分類	Wetaans									令和3年度														
類合	B+		(2011年度)	(2012年度)	(2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	平成23年度 (2011年度) 16,885	平成24年度 (2012年度) 16,764	平成25年度 (2013年度) 18,135	平成26年度 (2014年度) 17,922	平成27年度 (2015年度) 17,104	平成28年度 (2016年度) 16,293	平成29年度 (2017年度) 17,937	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度) 16,807	令和2年度 (2020年度) 14,427	令和3年度 (2021年度) 15,308		
£	農林水産業 建設業・鉱業		155	102	1	150	102	1	1	1	1	1	1		10,704	4	17,522	17/104	4		3	4	4	15,50		
2	製造業		74 72	79 76	77 74	76 75	71 74	74 76	79 83		76	73 79	72				14,781 744	13,909 680			14,646			12,17		
1	業務その他部門 エネルギー転換部門		72	76	7	75	74	5	7		81 7	8	83 8		729 2,297	779 2,273	2,397	2,515		776 2,567	815 2,420	791 2,276	700 2,112	2,36		
ΑД	分類不能 農業,林業				1			1	1	1	1	1	1			4			4	4	3	4	4			
ВЖ	1 原業 2 林薬				1			- 1	1	-	1	1	- 1			9			9	4	3	4	4			
Ĺ	3 漁業 (水産養殖業を除く) 4 水産養殖業																									
C â	拡業,採石業,砂利採取業 5 鉱業,採石業,砂利採取業																									
D ¾	建設業 6 総合工事業																									
	7 職別工事業(設備工事業を除く) 8 設備工事業		76	04	70	70			04		70			45.070	45.654	47.000	46.047	46.073	45.444	46 705	46.647	45.633	42.202			
F	関連業 9 食料品製造業 10 飲料・たはた・飼料製造業		76 3	81 5	79 6	78 6	73	75 6	81	77 7	78 7	75	74	15,978 119	15,654 134	17,006 138	10,847	132	130	16,705 136	135	99	13,382 81	14,13		
-	11 繊維工業 12 木材・木製品製造業 (家具を除く)														-			-	-							
	13 家具・装備品製造業 14 バルブ・紙・紙加工品製造業 15 印刷・同間連業						1	1	1	1	1	1	1					42	42	46	46	44	37			
	15 印刷・同間連業 16 化学工業 17 石油製品・石炭製品製造業		1 32 8	33 8	31	1 29	27	28	28 9	28 7	28 8	28	27 9	4,331 2,161	4,239 1,949	4,332 2,056	4,147 2,195	4,219 2,194	4,347 569	4,520 2,147	4,490 1,997	4,474 1,972	3,073 1,794	2,39		
	17 STANDERN STONEDUREN	1711 石油精製業 1731 コークス製造業	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2,130	1,916	1,927	2,066	2,163	536	2,115	1,971	1,941	1,771	1,9		
	18 プラスチック製品製造業 (別掲を除く) 19 ゴム製品製造業	•	3	3	4	4	3	4	3	3	3	2	3	52	56	63	62	58	60	29	27	26	23			
	20 なめし革・阿製品・モ皮製造業 21 産業・土石製品製造業 22 鉄鋼業		3 7	3 8	2	2	2	2 7	2 7	2 7	2 7	2	2 5	237 8,741	259 8,643	671 9,346	621 9,281	215 8,840	610 9,020		636 8,965	193 8,544	190 7,906	7,95		
	23 非鉄金属製造業 24 金属製品製造業		1	1	1	1	1	1		2	2	2	2	5,741	5	5,540	5,201	5	5,020	7	7	7	7,500			
- 1	25 はん用機械器具製造業 26 生産用機械器具製造業		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	6	7	7	4	6 5	- 6 5	6 5	5 5	8 5	1,18		
	27 業務用機械器具製造業 28 電子部品・デバイス・電子四路製造業		2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	21 42 96	23 58 97	26 65 96	25 62 107	19	16 49 84	20 59 94	21 52 69	20 52 87	18 54 59	5		
	29 電気機械器具製造業 30 情報通信機械器具製造業 31 輸送用機械器具製造業		4 5 2	4 2	4 2	4	4 2	3	5	4 2	4 2	4	4 2	95 92 68	103 70	96 113 77	107 108 74	108 92 68	94 60		91 56	87 82 51	59 76 44	7		
FR	32 その他の製造業 電気・ガス・熱供給・水道業		12	1 12	1 11	1 11	1 11	9	1 10	1 10	1 10	1 11	1 11	380	5 485	5 456	5 391	5 411	5 558	5 497	5 530	5 408	5 397	46		
	33 電気業	3311 発電所	5 4	5 4	5 4	5	5 4	3	4	4	4	4	4	338 330	392 380	357 345	342 330	362 351	475 475	452 452	448 448	335 335	336 336	39 39		
-	34 ガス薬	3312 変電所 3411 ガス製造工場										1	1										4			
	35 熱供給棄	3511 熱供給業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1 1	1	1	1	0.94 0.94	0.82 0.82		0.69	0.65 0.65	0.55	0.5		
G f	36 水道章 青報通信業		6 12	6 11	5 11	5 9	5 8	5 9	5 10	5 9	5 9	5 9	5 9			97 94	48 75		82 72		81 78	72 85	56 90	9:		
	37 通信業 38 放送業 39 情報サービス業		4	4	4	2	2	4	4	4	4	4	4	42	45	47	30	30	44	45	50	58	68	7		
	39 情報サービス業 40 インターネット別随サービス業 41 映像・音声・文字情報制作業		1					5		,	5	5		35	43	46	44	3/	28	29	28	26	- 22	É		
Н	聖翰業,郵便業 42 鉄道業		8	10	9	10	13	14	14	15	14	13	13	30	46	45	57	63	66	65	69	68	60	63		
-	43 道路旅客運送業 44 道路貨物運送業																									
	45 水運業 46 航空運輸業 47 倉庫業		7	1 7	R	1 8	1	1 11	1 11	1 17	1 11	1 10	1 10	27	6	39	11 39	9 45	9	9	9	9	7 43	4		
	48 連輪に附帯するサービス業 49 郵便業 (信書使事業を含む)		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	9	6	6	6	6	6	6	6	7			
I #	印売業, 小売業 50 各種商品卸売業		9	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	32	39	39	37	37	40	37	39	37	36	3!		
	51 繊維·衣服等卸売業 52 飲食料品卸売業 53 建築材料,鉱物·金属材料等卸売業		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3 n	3	3	3	4	4	3	3	3			
F	54 機械器具卸売業 55 その他の卸売業					1									°											
F	56 各種商品小売業 57 織物・衣服・身の回り品小売業		6	7	6	6	6	7	7	7	7	7	7	20	26	25	25	26	34	31	33	32	31	3		
F	58 飲食料品小売業 59 機械器具小売業 60 その他の小売業		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2			
J s	61 無店舗小売業 金融業,保険業		1						1	1	1	2	2	2						10	4	9	12	1		
-	62 銀行業 63 協同組織金融業																									
-	64 資金業,クレシットカード薬等非預金信用機関 65 金融商品取引業,商品先物取引業 66 補助的金融業等		1						1	1	1	1	1	2						10	4	9	10			
КЯ	67 保険業(保険媒介代理業,保険サービス業を含む) 下勤産業,物品賃貸業		14	17	16	17	15	15	16	16	16	15	18	77	107	120	127	114	113	107	113	107	92	9		
-	68 不動在取引業 69 不動在賃貸業・管理業		14	17	16	17	15	15	16	16	16	15	18	77	107	120	127	114	113	107	113	107	92	9		
L S	70 物品賃貸業 学術研究,専門・技術サービ、入業 74 (Wide MINISTERS MERCON)		1		1	1	1		1	1	1	1	1	6	6	5	4	4		9	8	8	7			
-	71 学術・開発研究機関 72 専門サービス業 (他に分類されないもの) 73 広告業		1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	6	6	5	4	4		9	8	8	7			
Μä	74 技術サービス業 (他に分類されないもの) 智泊業, 飲食サービス業																									
F	75 宿泊業 76 飲食店																									
N S	77 持ち得り・配達飲食サービス業 主活関連サービ*ス業,娯楽業																									
H	78 洗濯・理容・美容・治場業 79 その他の生活関連サービス業 80 娯楽業																									
0 \$	改育,学習支援業 81 学校教育		4		4	4	4	4	4	4	4	4	4	34	38	42	40	39	38		37	36	33	3		
P B	82 その他の教育,学習支援業 医療,福祉		7		8	8	9	10	11	11	11	11	11		45	51	49	51	52		62	62	62	6		
	83 医療業 84 保健衛生		7	7	8	8	9	10	11	11	11	11	11	36	41	51	49	51	52	61	62	62	62			
Q #	85 社会保険・社会福祉・介護事業 報合サービス事業			1											3											
	86 郵便局 87 協同組合 (他に分類されないもの) ナービス業 (他に分類されないもの)		8		8	9	7	8	10	9	6	8	9	227	253	265	286	240	231	323	316	132	246	29		
	88 廃棄物処理業 89 白動車整備業		8		8	9	7	8	10		6	8	9	227	253	265	286	240	231	323	316	132	246	29		
	90 機械等修理業 (別掲を除く) 91 職業紹介・労働者派遣業																									
	92 その他の事業サービス業 93 政治・経済・文化団体																									
	94 宗教 95 その他のサービス単 公務 (他に分類されるものを除く)		1	,	2	2	2	-	2	-	5	2	2	_		9	8	7	-	8	8	174	7			
	以務 (他に対策されるものを除く) 96 外国公務 97 国家公務		1	1	2	2	2	2	2	2	5	2	2	4	4	9	8	,	,	8	8	1/4	,			
T 5	98 地方公務 分類不能の産業		1	1	2	2	2	2	2	2	5	2	2	4	4	9	8	7	7	8	8	174	7			
Ī	99 分類不能の産業																									

^{■ 91 |} 地球・電影電影 ● 部門仁日本標本展子別比の対応は以下のとおりです。 ・製送業: E報送業(エネルギー転換部門の細分別除く) ・製造業: E報送業(エネルギー転換部門の細分別除く) ・農林水産業: A農業 林葉, B油業 ・農林水産業: A農業 林葉, B油業 ・農林水産業: A農業 林葉, B油業 ・農林水産業: A農業 林葉, B油業 ・選邦での他部門: E報送業の1711: 石油精製業、1731: 1 → フス製造業、「電気・ガス・熱供給・水道業の3311: 発電所、3312: 変電所、3411: ガス製造工場、3511: 熱供給業 ・中分類(17、33、34、35)はエオルギー転換部門を含んでいます。(エスルギー転換部門の働分類コート分は内財表示のみ。) ・大分類(E: 9~32の合計)(F: 33~36の合計)はエネルギー転換部門を含んでいます。(エネルギー転換部門の細分類コート分は内財表示のみ。)